



京都府立
久美浜高等学校

学校だより

第 1 号

発行 令和2年6月

住所 京丹後市久美浜町橋爪65番地 電話 0772-82-0069



京都府立
丹後緑風高等学校
久美浜学舎

本年4月、久美浜高校に校長として着任しました^{よこしまひろこ}横嶋裕子でございます。今年度で創立118年目となる久美浜高校には、歴史と伝統の重みを感じさせるものが至る所にあります。そして、新たに丹後緑風高校久美浜学舎1年生を迎え、久美浜高校2・3年生と合わせて184名の生徒が高校生活を送っています。

約1か月間の臨時休業の後、5月25日(月)から学校を再開しました。臨時休業期間中、保護者の皆様には様々な面で御協力いただき、ありがとうございました。新たな生活様式を求められてはいるものの、生徒の笑顔や元気な声、そして活気が学校に戻ってきました。学校が安心できる

居場所であり続けられるように、小規模校の利点を生かしつつ、生徒一人一人の学びを保障し、希望進路実現に向け、教職員一同、全力で支えてまいります。学校行事については、例年と同じ形での実施は難しいと思いますが、可能な方法を模索し、高校時代の思い出が一つでも多くなるようにしたいと考えています。

努力が見える形になり、他者から評価されることで、生徒たちの自己有用感が高まります。「生徒一人一人が輝ける学校」、そして、教職員、生徒や保護者の皆様など、「学校に関わる誰もが誇りを持てる学校」を目指して教育活動を進めてまいります。地域の方々や卒業生の皆様には、引き続き御理解・御協力を賜りますようお願いいたします。



休校中の生徒の声

- ・ オンラインの動画で何度も見直せるので苦手を見つけられるようになるまで勉強できました。(1年男子)
- ・ 課題や講義を計画的に行うことが出来た。(1年女子)
- ・ いつも学校に行く時間に起き、授業課題をしっかりと出来た！出来なかった分はお昼にまわし、終わらせることが出来た。(1年女子)
- ・ 指示された課題や授業動画を見ながら過ごせた。(2年男子)
- ・ はじめてのオンライン授業、楽しかった。(2年女子)
- ・ 体育の課題で疲れてしまって、体力が落ちていると感じました。(2年男子)
- ・ 午前中にオンラインで頑張った。昼からは家のお手伝いをした。(2年男子)
- ・ 時間割にそって課題に取り組めた。スタディサプリの動画や、YouTubeの動画など新しい方法のなかで、積極的に取り組めた。(2年女子)
- ・ ネット授業だったけど集中して受ける事ができて良かった授業がとてもわかりやすかった。(3年男子)
- ・ 自宅学習の時間割通りに取り組むことが出来た。(3年女子)
- ・ オンライン授業は難しい。(3年女子)
- ・ 初のオンライン授業でワクワクでした。笑(3年女子)
- ・ しっかり体も動かせたし、課題も終わらせることができた。(3年男子)
- ・ zoomに慣れてきた。だんだん普段の生活に戻ってきた気がする。(3年女子)



新型コロナウイルス感染症による学校休業対策

4月21日から始まった学校休業でしたが、誰にとっても初めての経験で多くの戸惑いもある中、「本校の生徒のために必要なサポートは?」「課題プリントを渡すだけでよいのか?」「我々からのメッセージをどうすれば伝えられる?」と、職員会議で話し合いました。そして、そこで出てきたアイデアをまとめ、できることから実行していきました。「学びを止めない!」 学校再開までの約1ヶ月のおもな取組を紹介します。



その1 ホームページで日々の課題を配信

各教科から、毎日の課題をスモールステップで指示をしました。大量の課題に埋もれて、最終日にまとめてやるようなことにならないように、今日中に終わる課題を細かく指示しました。

ホームページに各クラス専用のページを設けて、教科担当からの指示と、クラス担任からの便りを届けました。どちらも勉強のことだけでなく、この状況を乗り越えていこうというメッセージが添えられていました。



その2 先生が YouTuber に!?



課題の指示だけでは、内容を理解できない場合を想定し、多くの先生が授業動画の制作に挑戦しました。三脚を片手に、生徒のいない教室へ行き、カメラに向かって

授業を行いました。その様子を YouTube にアップして、生徒が見られるようにしました。アップされた動画の本数は46本になりました。今回初めて動画編集を行った教員もいましたが、四苦八苦しつつもコツコツと頑張っていました。



その3 データベース紹介で読書支援

学校図書館では休業中も図書資料の提供・相談に応じる体制を整えていたほか、学校ホームページを通して、電子図書館の利用案内や、本の無料公開 Web サイトの紹介など、在宅での読書支援に努めました。そうした取組は教育新聞の特集記事「コロナ時代の教育」(5月30日 Web 掲載)で紹介されました。

その4 スタディサプリでメッセージ



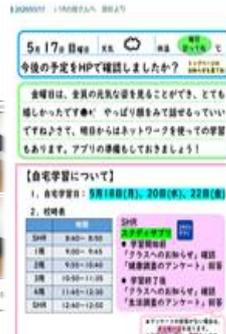
ゴールデンウィークが終わった頃から、リクルート社のスタディサプリが使えるようになりました。多くの授業動画が視聴できるとともに、教員と生徒とを結ぶメッセージ機能が役に立ちました。この機能で、アップした YouTube の動画を見る URL を講座の生徒全員に簡単に伝えることができました。

スタディサプリでは、メッセージ機能とアンケート機能を組み合わせて、オンライン SHR を行いました。朝の連絡事項をメッセージで送り、体調管理をアンケートで答える。一日の終わりには明日の連絡事項をメッセージで送り、その日のふり返りをアンケートで答える。こんなやりとりを続けました。

その5 Zoom でオンライン授業



全国的に一躍注目を浴びているオンライン会議システム Zoom を活用して、オンライン授業も行いました。生徒も教員も初めて使うアプリでしたが、さすがにデジタルネイティブな世代の生徒たちはすぐに使いこなしていました。教員も iPad を駆使して、手書きのノートアプリを黒板に見立てたり、パワーポイントで作っておいたスライドを表示したりしながら、解りやすい授業を目指しました。



予測不可能な時代をどのように生きるかを教えることがこれからの教育の課題だと言われていますが、まさに今回の休業せざるを得ない状況の中で、学びを止めない工夫について全教職員で考え、取り組みました。生徒たちもそれに応えて、規則正しい有意義な毎日を過ごそうとしていました。登校日がスタートし、生徒たちの笑顔が見られたときは、当たり前だと思っていたものが、こんなにも尊いものなのだと痛感しました。